

ご挨拶

2020年年初、我々鹿児島商工会議所青年部は「よろこびをつなぐYEGへ ～つないだ情熱を次の未来に～」をスローガンに掲げ、魅力あるまちづくりを創出し、地域社会の活性化を図り、先輩方が築き引き継がれてきた歴史と伝統を次世代に引き継いでいくべく活動を始めました。

その矢先に新型コロナウイルス（COVID-19）の感染の拡大が瞬く間に世界中に広がり、3月11日にはWHOによるパンデミック宣言が出され、日本でも4月7日に東京など7都道府県に対しての緊急事態宣言が発令、4月16日には全都道府県に適用されるかかってないほどの事態となりました。

世界中で移動制限や大規模イベントの中止、スポーツなどでの無観客開催などの感染防止策がとられ、ついには日本中が心待ちにしていた東京オリンピック・パラリンピックの延期、鹿児島においてもかごしま国体・かごしま大会の延期など様々なことが大きく変化、変容し、我々も当初予定していた様々な活動の中止、見直しが余儀なくされ、「Withコロナ」として生活や仕事のあり様を大きく変えざるを得ない状況となりました。

そのような大きな課題、変革の中にあって鹿児島商工会議所青年部として、進むべき新たな未来に向け、愛すべき郷土鹿児島に「何ができるか」「何をなすべきか」「何をつないでいけるか」を、想いを共有する鹿児島商工会議所青年部のメンバーと真剣に考え議論し、政策提言活動を進めてまいりました。

1865年、いちき串木野市の羽島港から旅立った「薩摩藩英国留学生」の1人である五代友厚は、のちに大阪商工会議所の初代会頭となり多くの偉大な功績を残しました。世界の情勢を知り危機感を感じた五代友厚は、1864年6月頃、薩摩藩に対して今後の国づくりに対し、「これからは海外に留学し、西洋の技術を習得しなければ世界の大勢に遅れ、国の発展に役立ちません。」と、上申書を提出したと言われています。混沌とした幕末から明治にかけての時代の薩摩の先人たちのように、我々も勇気と情熱と強い信念を持って新しい道を切り開いていかなければなりません。今回、我々が行ってきたコロナ禍への対応を通じた活動をより実効性のあるものにして、さらに広く地域への活動へと拡大し、地元鹿児島が自由で創意工夫に富んだ心豊かな社会の構築へ進んでいきたいと考えます。この未曾有の事態からの復活と、鹿児島のこの先の笑顔あふれる未来を繋いでいける一端を担えれば幸いです。

令和2年度鹿児島商工会議所青年部
会長 俣木 裕一
(城山観光株式会社)